

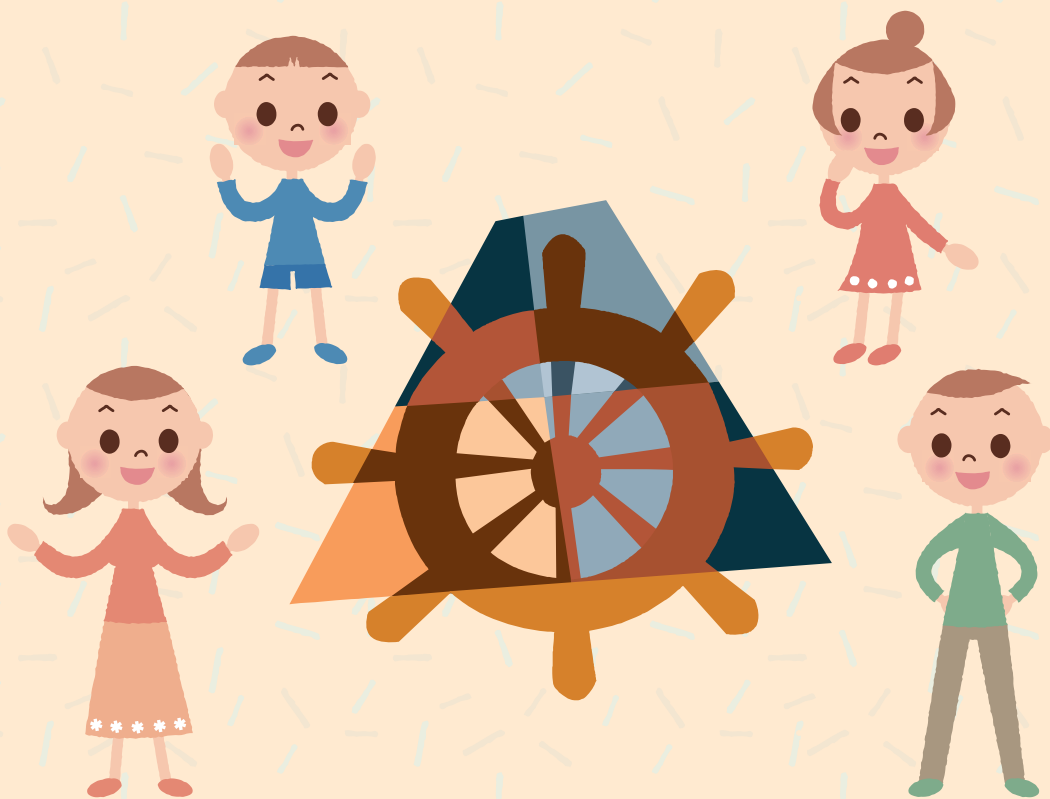
Q5 今、なぜ百年も先を目標とした長期構想が必要なのですか？

時代の変化に流されず、お茶のまちで あい続けるための羅針盤が必要

日本を代表するお茶の産地、お茶の集散地である静岡市をめぐる環境は、農業としての生産現場をはじめ、ライフスタイルの変化に伴う消費の多様化、流通構造の変化など、大きく様変わりしました。さらに今後は、少子・高齢化の進行に伴う人口減少が避けられず、時代はすでにこれまでの経験則では計ることのできない時空間へと突入しています。

こうした中で、これからも産業としてのお茶が栄え、生活・文化の中にお茶が生き続け、誰もが感じる“お茶のまち”であり続けるには、場当たりの対処療法ではなく、歴史に学びつつ遠い将来を見通したビジョンを描き、そこを羅針盤の基軸として着実に歩を進めていくこと、次代へと思いをつなげていくことが必要と考えました。

時代とともに人々の生活は刻々と変化し続けますが、急峻な山々で営まれるお茶づくりは、簡単に姿を変えることができるものではありません。だからこそ、百年という長いものさしでとらえたもの、様々な荒波を受けても時代という大海原の中で行き先を見失うことのない、わたしたち市民の心の目印ともなる羅針盤が必要であると考えました。





Q 6 「お茶のまちづくり」に向けた大切な考え方とは何ですか？

交わり、学び、伝え、創ろう

先人が、脈々と作り続けてきたお茶。その価値をさらに高めて、後世に伝えていくことは、現代を生きる私たちに課せられた責務ともいえます。

お茶の歴史・文化を次世代に伝えつつ、先人の知恵に学びながら、お茶を作る人、伝える人、楽しむ人が交流（協働）し、時代の要請に合った新しいお茶の価値・魅力を創造していくことが重要です。

そこで、「交わる」、「学ぶ」、「伝える」、「創る」を、世代が変わっても変わることのない、お茶のまちづくりの理念とします。

「交わる」

お茶を作る人、伝える人、楽しむ人が、もっと交流・連携することにより、お茶も人々の関係も進化させていきます。また、産地と市街地、さらには市内外の人々が、互いに持つ資源や思いを起点に交流を促すことで、お茶のまちに大きな流れが生まれ出されます。

「学ぶ」

お茶は人と人を取り持ち、人の心を癒すことのできる貴重なもの。人々の健やかな毎日を支える大切なもの。作る人、伝える人、楽しむ人も茶の持つ神秘の力を学びます。

お茶を育て、作り、人々に届けていくこと、この繰り返しを未来永劫引き継いでいくためには、そこに携わる者自らに学びの姿勢が必要です。

「伝える」

先人が築き上げた茶産地・お茶のまちとしての確かな記録。お茶作り・まちづくりへの思いを確実に継承することが必要です。また、先人たちが競い、自然と共に、また生活の中で極めてきた静岡市のお茶の魅力やその背景も、茶畑のある光景とともに伝えることが必要です。

「創る」

社会の状況や私たちの生活は、日々変化しています。いつの時代も人々の暮らしに密着する、新たなお茶の姿、お茶のある生活を創り上げていくことが必要です。

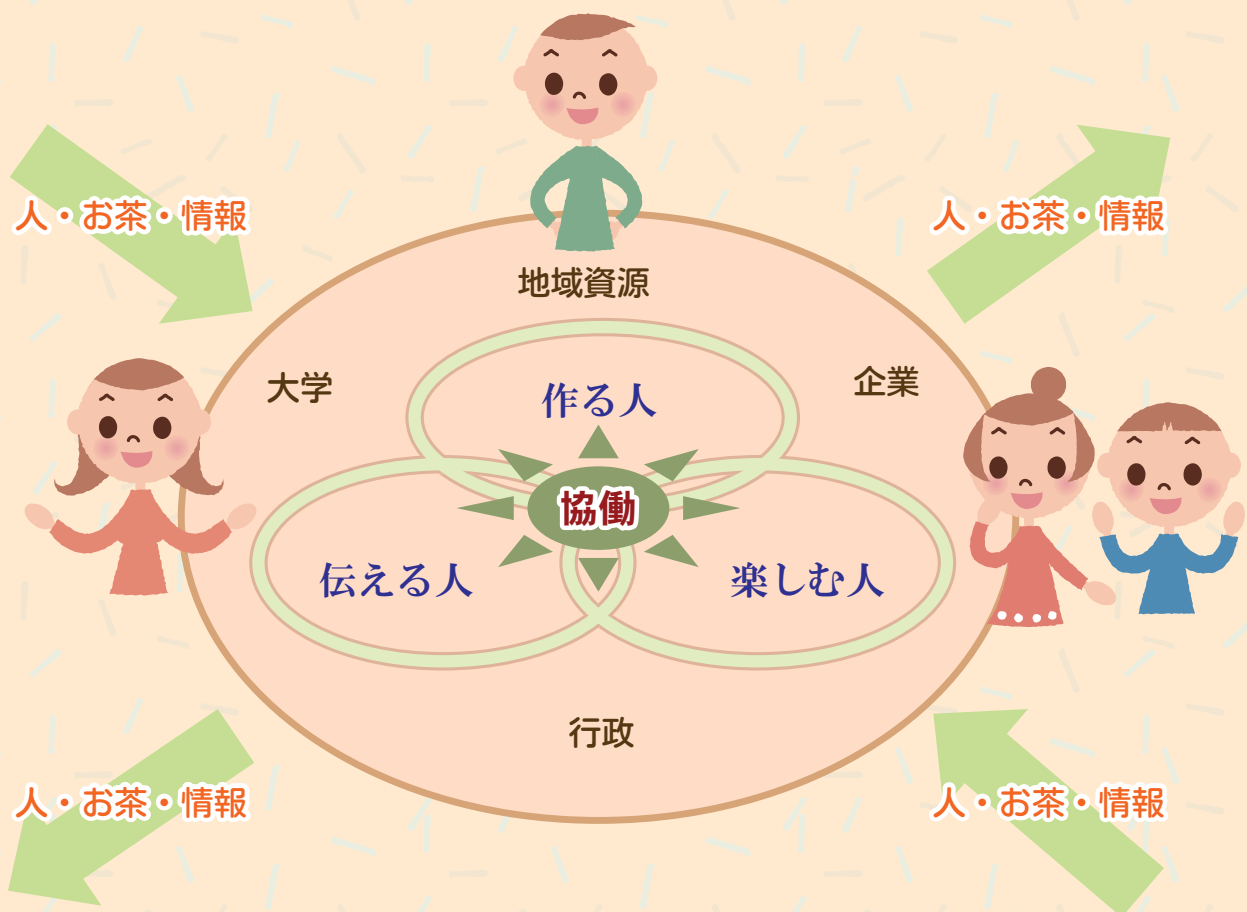


Q7 「お茶のまち静岡市」のめざす100年後の姿はどんなまちですか？

世界中の誰もがあこがれるお茶のまち
～幸せな笑顔で満ちあふれた産業文化創造都市～

静岡市は、先人の努力によって名実ともに日本屈指の茶どころとしての地位を確立することができました。

これからは、こうした先人の志や技量を継承しつつ、作る人（茶農家や茶問屋）と楽しむ人（市民）、そして両者をつなぐ伝える人（茶問屋や小売店、日本茶インストラクター）の協働により、魅力あるお茶づくりは無論、さらに、お茶を通じた心やすらぐ生活空間があり、笑顔を求めて人々が集まってくるまち、そして、まちの内にも、まちの外とも、人・お茶・情報の交流が絶えることがなく、その交流がまた新たな笑顔を生み出していく — そんなお茶を通じた新たな価値が次々と創造される“お茶のまち静岡市”を目指します。





<三つの基本方向>

人々の心を引きつけるお茶をつくるまち

茶農家・茶商の洗練された技術に、これまで直接関わるのが少なかった消費者としての市民の力をかみ合わせることで、地域の個性を活かしつつ市民も自慢したくなるお茶が次々と生み出されるお茶のまちを目指します。

お茶が生活・文化の一部となり心やすらぐまち

先人が見出し、代々受け継がれてきたお茶の持つ様々な力—「人々の心を癒す力」「人々の健康を育む力」「人々の心をつなぐ力」—を100年後も享受できるお茶のまちを目指します。

お茶を中心に交流の輪が広がるまち

世界で一番“一期一会の心”が深く、広く浸みわたったまちづくりを進めることにより、お茶を介したコミュニケーションが次々に網目のように広がり、内外との交流活動が生まれ、経済活動の盛んなまちを目指します。

